



世界農業遺産

Globally Important Agricultural Heritage Systems

トキ と共生する佐渡の里山

朱鷺の舞う里を
未来へ
受け継ぎたい



水田での江の設置



ふゆみずたんぼ



魚道の設置



ビオトープの設置



トキの餌となるドジョウなど多様な生きものが生息できる水田環境を整えるために「生きものを育む農法」に取り組んでいます。

環境に配慮し育てられた米は、「朱鷺と暮らす郷」の名称でブランド化されています。



世界農業遺産認定による効果

農林水産業

認証米のブランド力向上と販路拡大

- 朱鷺と暮らす郷づくり認証制度のブランド力向上のため、要件の検討、PRイベントの実施、普及啓発活動を展開
- 販路拡大のため、米穀専門店を中心とした営業活動のほか、佐渡産品を取扱う「サドメシラン」の普及拡大活動を展開



- 朱鷺と暮らす郷認証農家数 : 256戸 (H20) → **384戸** (R3)
- 朱鷺と暮らす郷認証面積 : 426ha (H20) → **1,072ha** (R3)
- 農業法人等組織化数 : 28団体 (H23) → **53団体** (R3)
- 新規就農者数 : 14名 (H24) → **延べ161名** (R3)
- 朱鷺と暮らす郷販売米穀専門店の店舗数 : 150店舗 (H23) → **280店舗** (R3)
- サドメシラン店舗数 : 18店舗 (H26) → **121店舗** (R3)

観光

『トキと共生する里山』を巡る交流人口の増加

- 国内で初めて世界農業遺産に認定された島の農業システムを確認に訪れる交流人口の拡大に向け、PRイベントの実施、ツアーの造成、ブランドマークの開発、田んぼアートの実施
- 島で幅広く活動する「地域おこし協力隊」の多くが、任期を終えた後も島に残って暮らしている



▲田んぼアートの実施

- 世界農業遺産の認知度(島内) : - (H25) → **70.7%** (R3)
- トキの森公園来場数 (H23から累計) : 3,107,367人 (H23) → **4,541,702人** (R3)
- 佐渡棚田協議会の会員数 : 17人 (H24) → **83人** (R3)
- 佐渡市世界農業遺産ブランドマーク申請件数 (延べ) : - (H23) → **102件** (R3)
- 田んぼアートイベント (田植え・稲刈り) 参加人数 : - (H23) → **200人** (R3)
- 地域おこし協力隊採用人数 (延べ)、定着率 : 4人 (H24) → **48人** (R3) 定着率**62.5%** (R3)

次世代への継承

農文化で育まれた伝統芸能の継承

- 国内の3分の1ともいわれる能舞台が現存し演能が行われるほか、五穀豊穡などを願いながら継承してきた伝統芸能が残っている



▲伝統芸能「鬼太鼓」

- 能舞台現存数 : 35棟 (H23) → **35棟** (R3)
- 鬼太鼓保存件数 : 約120件 (H23) → **約120件** (R3)

子どもたちへの環境教育、食育教育

- 身近な田んぼや川など、見慣れた風景が守られてきた仕組みや取組みを学ぶ教育活動を推進するとともに、給食に地場産品を使った食育から農業を学ぶ取組みが進んでいる
- 環境教育(トキ)を取り入れている島内中学校 : - (H23) → **13校** (R3)
- 佐渡Kids生きもの調査隊の隊員数 : - (H23) → **50人** (R3)
- 島内小中学校給食における認証米使用率(米粉含む) : - (H23) → **100%** (R3)

生物多様性の推進

生物多様性を支える仕組みや取組み

- トキと人が共生できる里山環境を保全・再生するため、トキをシンボルとした多くの生きものが棲む安全・安心な農法を追求
- 生きものを育む農法、生きもの調査といった取組みが浸透し、トキのエサ場となる生物多様性豊かな田んぼが保たれ、野性下のトキ個体数が増加している



▲年に2回実施する「生きもの調査」

- 野生下のトキの個体数(推定) : 49羽 (H23) → **484羽** (R3)
- トキ環境整備指定寄附金額 (H23から累計) : 7,668千円 (H23) → **83,259千円** (R3)
- トキファンクラブ会員数 (H23年から累計) : 4,181名 (H23) → **8,769名** (R3)
- 生物多様性の認知度 : - (H23) → **81.7%** (R3)